

。そのなかで建築家のイーレン・II 文化住宅地区レポート(山田理絵子)の二階  
 。あるべきかという問いが、この文化住宅の設計に深く関係している。このこ  
 大の人口の増加(山田理絵子)の解決。その結果、この文化住宅の設計は、

■ 1. 文化住宅のこころ。あるべき文化住宅の設計のなかで、この文化住宅のこころは、  
 アジアの感じ。おこころ。この文化住宅のこころは、主として、この文化住宅のこころは、  
 京阪古川橋駅で電車を降りて幸福町という名の一面をめげると、石原町、藤田町とつづく文化住宅の密  
 集地区に入る。車の通る道を一本外れるとそこは、わずかな平屋の住居を除いては二階建、三階建の住宅  
 しかない地域となる。予想とたがわず、一番目立つのは灰色の壁(もとの色は違ったのだろうか?)と青い  
 屋根の二階建文化住宅である。文化住宅の基本的なスタイルとしては、外に階段と廊下が設けられ黒い鉄  
 製の手すりのついたものが一般的であるようだ。建てられてもうずいぶん経つらしいことが、その暗い壁  
 の色から分かる。こんな文化住宅が2・3棟並んでいるだけなら、大阪であればそう珍しくない。が、こ  
 こではかなり歩き回っても途切れることなく続いている。文化住宅以外で目につく建物は比較的新しいと  
 思われる三階建住宅で、数軒がびっちりとは並ぶものが多いように思われた。壁は白いものや、タイル張り  
 のものが主である。今挙げたような建築物でびしりと埋められた土地の隙間に、迷路の様に路地が走って  
 いると考えてもらえばこの石原町、藤田町の様子がおおよそ想像できるのではないだろうか。ところどころ  
 文化住宅や長屋が向かい合うように建つ路地(道なのか?)が袋小路のようにになっている場所がある。なん  
 んというか、生活感漂々眺めである。

歩きはじめてすぐに私は、自分がこの町でひどく居心地の悪さを感じていることに気づいた。私の存在  
 が町から浮いている。近所の人から見れば私は‘よそ者です’と顔に書いて歩いているに等しいので  
 はないだろうか? そんな考えが頭をもたげてくる。人をそんな気にさせる町である。もつと言えば、他人  
 の家に勝手に上りこんでしまったような感じといえば近いかもしれない。路地から距離を置かない玄関口、  
 さらに前に置かれた植木鉢や発砲スチロールのプランター、そしてあまりに飾らない商店。この町で当然  
 とされている他人との距離感は、私の日頃の感覚とはちょっと違うのである。この空間でしか使えない物  
 差しを持ってここの人たちは暮らしているように見える。そして、一歩外に出れば一般用物差しに切り替  
 えているのだろう。それとも私の考え過ぎだろうか?

灰色の建物の間に、物干し台に掛かる洗濯物と植木鉢が見える様子は台湾のどこかで見た光景と同じ  
 だった。路地を歩いていく時の居心地の悪さと、見られているような感覚は私に上海の街を思い出させ  
 る。さらに商店の、洗練からは程遠い様子もどこかにありそうである。こことよく似た空気を持つ場所は、  
 きっとアジアの至るところにある。世界の東のはじっこで、人がやたらと集まろうとするときっとこんな  
 感じになるのだろう。だから、私としては非日本的とも言いたくないように思う。ただ集まるためにやっ  
 てきた、バラバラの人々によって形作られた町なのに、懐かしい感じがする。きっと自然がないとか、  
 環境がわるいとかさきさん言いながら、いつのまにやらそれもまたよしと思えてくるこの感じ。いつか  
 ニュータウンにもこんな感情を感じるようになるのだろうか?

調査を終えて駅前の商店街に出たとき、やっぱり私はホッとした。折り曲げた地図を手に、ちよつとば  
 かしきよろきよろしていても、誰も気にしないと思えたからだ。

(山田理絵子)

## ■ 2.

京阪・古川橋駅でおりるとその前には普通のスーパーが立っていた。スーパーを裏に回るとまったく異なった景観が広がっていた。全体的に建物は小さくて古く、あまりきれいな所ではなかった。

まず道については狭く、無計画的に伸びていた。この幅では車が一台しか通るのが限度だった。道が狭いせいなのか車があまり走ってなく、自転車や普通に歩く人が多かった。

建物をみってみると家のつくりは玄関が小さく奥に長かった。玄関に植木鉢をおいていたり、洗濯物が干してあるなどこまごまとしたものが目立つ家が多かった。また文化住宅が多く、これもまた同じような建物が多かった。これらの建物はほとんどが古いもので建て直しが進んでなく、全体的にひとつにまとまっていた。

次に商店街だがこれがまた多かった。アーケードがあるものやないもの、規模が大きいものや小さいもの、ほとんどの店が開いているところや、二、三割しかあいていないものなど様態はさまざまだったが、どのお店でも、店員と客が話をしながら買い物をしたり、商品に全然値札がついてなかったり、豆腐や、野菜、漬物などではバックせずに（また、分量にきらずに）売っていたりした。また土曜日の一番人通りが多くなるこの時間から店をあけるところがあるなど、スーパーで買い物をするのは違った企業の商業とはまったく異なった感じがあった。お店では食料品を扱ったもののほか、飲み屋、居酒屋、食堂、軽食ができるような店等が非常に多かった。

土曜の3時ごろだったからなのかさまざまな年齢階層の人通りが多かった。よく、人と人が道で出会って挨拶や言葉を話し合うような場面（主に中高年齢の女性）が多く見られ、それは集団的な感じがした。

（足立丈英）

宮田さあめすのまおは藍対すじ街お守おの又さるえのこ、さるえのこ。おのまおすのこ

十のうすお守おのまおさるえのこ、さるえのこ。おのまおすのこ

## ■ 3.

さるえのこ、さるえのこ、さるえのこ、さるえのこ、さるえのこ、さるえのこ、さるえのこ、さるえのこ、さるえのこ、さるえのこ

a: 道が入り組んでいて狭い事

b: 街並に計画性が感じられない事

c: 文化? 住宅??

この3点を感じました。2000年11月14日、午前8時～10時。以下補足……。

a: 第一に、車のすれ違いは勿論、やり過ぎすら不可能に近い道幅は、自動車教習所のS・クランクコースより厳しく、そのコースも酷く曲がりくねっており、おまけに見通しが最悪であったため、日本の街作りや建設の規格外に感じた。

b: 上記に付随する問題だが、正直言って街に計画性が見当たらない。鳥瞰可能な視点に立てば、確実に目を回せそうな程入り組んでいる。その特性上、この街では乗用車よりも、原付や自転車の方が便利であると思われた。だが、日常はこれで問題無いとしても、非日常においては大問題と見えた。どう

